

専属舞踊団検証会議及び有識者ヒアリングの結果について

令和元年8月 文化政策課作成

【専属舞踊団検証会議及び有識者ヒアリングの結果】

レジデンシャルダンスカンパニー制度について

国内唯一となる劇場専属舞踊団が地方都市新潟に存在するという事は、画期的であり日本の劇場文化の振興にとって非常に意義のある取り組みである。

Noism の活動について

【成果】

■作品の評価が高い

・芸術性が高く、国内外から高く評価されている。

■Noism 出身ダンサーの評価が高い

・高い身体感覚を備えたダンサーを多く輩出しており、国内の舞踊界に貢献している。

【課題】

■地域貢献の活動が不十分

- ・中学校出前公演やワークショップなどの普及啓発的なプログラムは脆弱であり、積極的な姿勢はとられてこなかった。
- ・市内の舞踊協会や学校の部活等との関係も友好的だと言えるものではない。
- ・スタジオB等を占有していることから、市内舞踊関係者等の練習場所が不足している。(スタジオB等のNoismの使用に伴うH30年度減免額34,629千円)

■国内他館との連携が不十分

- ・活動初期は共同制作を行うなどネットワーク形成に向け活動し、多くの国内公演を行っていたが、近年は実施されていない。
- ・他館との対等な関係を築く姿勢が見られず、要求が多い印象である。
- ・作品の質は高いが規模が大きいため費用が掛かる作品が多く、幅広い活動はできていない。

■りゅーとぴあではNoism以外の舞踊作品が観られない

- ・舞踊部門の振興のための予算が全てNoismの活動費になっており、市民の中にはNoismだけがダンスだと思っていたという声もある。
- ・Noismを辞めたダンサーをはじめ、多様な振付家やダンサーとの関わりが少ない。

■金森氏がプロデュース、マネジメント業務を行い権限が拡大している

- ・マネジメントする人がおらず芸術監督の決断のみによって左右される。
- ・りゅーとぴあ内はもちろん他の劇場とも円滑な関係性を保つため、マネジメント分野の役割と業務を分散させる必要がある。
- ・Noismはりゅーとぴあと市のコンセンサスを取る必要がある。りゅーとぴあと話し合いができていない状況である。

■予算・労務管理の視点が欠けている

- ・予算が削られていく中、他事業との兼ね合いでNoismの事業費をそのまま維持していくのは厳しい。
- ・スタッフの負担が大きく、勤務状況は限界にきている。

【Noism 設置目的】

(1)新潟において、質の高い新たな舞踊作品を創造し、全国・世界に向けて発信する。

⇒達成

(2)地方から大都市に向けての新たな舞台作品の創造・発信のネットワークを形成する。

⇒未達成

(3)活動を通して、新潟における舞踊の普及・育成などを図り、市民文化の振興に貢献する。

⇒未達成

【今後の方向性を検討するにあたり考慮すべき点】

・公共ホールでのレジデンシャル活動という先進的な取り組みは、設立当初から注目されており、今日では評価や期待も高い。

・国内のリーダー館として、15年間の経験をもとに、レジデンシャル活動の更なる発展につなげていくことが求められている。

・レジデンシャル活動がもたらす成果や評価、ノウハウなどは、公共施設の力としてもストックされていくべきものであり、特定の個人や団体のみに依存すべきではない。

・Noism を含みりゅーとぴあ文化事業予算の縮減は、「文化創造交流都市」としての新潟市の評価の低下につながり、本市以外からの補助金等を含む自主財源の確保が困難となるおそれがある。その場合、りゅーとぴあが実施する文化事業全体が大幅に縮小となる危険性がある。



Noism の活動継続には設置目的の達成に向け左記の課題に対する『改善』『見直し』が必要